

- 本県の大豆・麦の収量・品質は、年次変動が大きく、東北地域でも下位であるが、一方でトップレベルの経営体が排出されている。
- 奨励品種として大豆(シュウリュウ)、小麦(銀河のちから)が採用され、普及拡大が期待されている。
- 労力・土地利用の制約他から大豆・麦とも連作圃場が増加傾向となり、作業体系の組立や土地利用の見直しが課題となっている。
- 継続的な土づくり・土壌改良材の投入が限定的で、排水対策や湿害回避対策が徹底されていない。

目標とする成果

1 水田大豆・麦の技術課題の解決支援手法の確立と、継続的な技術の確認と見直し

■主産地における重点経営体の単収目標

大豆(リュウホウ)

H26 185kg/10a → H30 200kg/10a

小麦

H26(ナンブコムギ) 170kg/10a → H30 180kg/10a

H26(ゆきちから) 300kg/10a → H30 315kg/10a

■技術的課題解決支援手法のとりまとめと優良事例集の作成

2 収量・品質に優れる大豆・麦品種の普及と湿害回避播種技術等の定着

■湿害回避播種技術の普及面積割合

45.8%(H25) → 55%(H30)

■シュウリュウの作付面積

30ha(H26) → 500ha(H28) → 1,000(H30)



豆腐加工適性の高いシュウリュウ



超強力小麦 銀河のちから

主な活動内容

平成27年度

■大豆・麦主産地の普及センターと連携して、**水田大豆・麦に関する技術的な課題の抽出、解決手法**について検討。

■各地で設置されているシュウリュウの展示圃場について関係機関と巡回し、生育概況を把握。

■シュウリュウ研究会を開催

■**水田大豆・麦の低収要因の改善**による安定生産の推進

■普及員・関係機関を対象とした**ダイズシストセンチュウ研修会**の実施

平成28年度

■**土地利用体系の事例収集**。

■排水対策と湿害回避播種技術を軸とした**大豆総合実証圃場の設置**。

■**圃場条件に適した排水対策**のまとめ、カットドレーン等の実演会を実施。

平成29年度～

■重点指導経営体における支援取組の整理、実績検討

■技術的課題解決手法マニュアル、土地利用優良事例集の作成

■水田大豆・麦の品種特性をいかした高品質生産支援

関係機関との連携

■県域GIは、**県農研センターや各普及センター、メーカー、関係機関の連携をコーディネート**。研究会、研修会の開催、実績のとりまとめを実施。

■県農研センターは、**大豆・麦に関する新品種の特性把握や高品質栽培に関する試験研究**など、専門技術面をサポート。

■各普及センターは、経営体への聞き取り調査を実施したほか、実証圃設置にあたり**生産者(生産部会)等との調整、実証圃の管理指導等**を実施。

■メーカーは、**新技術の導入にあたって実証機械の手配および運営協力**を行い、機械導入を促進。

普及活動の特徴

■中央普及センター県域普及グループ(農業革新支援センター)が各普及センターと連携し、**調査研究活動を通して技術的課題や優良事例の収集、課題解決手法の確立**に取り組む。

■シュウリュウの普及拡大に関して、県域普及グループが**コーディネート**し、生産者や実需者、関係機関を対象としたシュウリュウ研究会を発足させた。

